学級経営に焦点を当てた支援体制づくりについて

～Q-Uを中心として～

土佐女子中学高等学校　教諭　槌谷　大作

　Ａ校において導入から５年目を迎えたQ-Uを、課題を抱えた生徒にさらに還元できるものとするために、次の取組を行った。

　⑴　事前分析検討会の設定

　　　Q-Uの分析・検討を校内で一貫して行えるよう、Q-Uの学年ごとの分析検討会に先立って、学年主任を主体とした事前分析検討会を行った。学年主任の負担はやや増加したが、学年団の主体性が強くなり、課題を抱える生徒についてより詳細な情報交換がなされることとなった。

　⑵　生徒状況アンケートの記入・回覧

　　　学年団中心であったQ-Uの利用を教科担当者を含んだチーム支援につなげるために、「生徒状況アンケート」に取り組んだ。配慮が必要と考えられる生徒の状況をホーム主任から各教科担当者に伝えるとともに、各教科での授業の様子やコミュニケーションの取りやすさなどの情報を授業担当者からホーム主任に知らせることで、課題を抱えた個々の生徒の実態や支援方法を共有することができた。

　キーワード：Q-U、教科、生徒支援委員会、チーム支援会